

17日 月曜

使徒

11:19 さて、ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで進んで行ったが、ユダヤ人以外の人には、だれにもみことばを語らなかつた。

11:20 ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。

11:21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大勢の人が信じて主に立ち返つた。

11:22 この知らせがエルサレムにある教会の耳に入ったので、彼らはバルナバをアンティオキアに遣わした。

11:23 バルナバはそこに到着し、神の恵みを見て喜んだ。そして、心を堅く保っていつも主にとどまっているようにと、皆を励ました。

11:24 彼は立派な人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大勢の人たちが主に導かれた。

11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソに行き、

11:26 彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

11:27 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下つて来た。

11:28 その中の一人で名をアガボという人が立って、世界中に大飢饉が起これると御霊によって預言し、それがクラウディウス帝の時に起こつた。



11:29 弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。

11:30 彼らはそれを実行し、バルナバとサウロの手に託して長老たちに送った。

キプロス人やクレネ人は、ユダヤ人から見たら異質な人々ですが、彼らがいることによって福音の広がる範囲が大きくなったのです。教会も同じです。互いに違いを喜び、そしてそれだけでなくそこから主のわざが進むように方向付けて行きましょう。

教会がバルナバを指導者として派遣したことも興味深いことです。人々が救われているなら、当然同じ十字架と聖霊ですから、その必要もないかと思われませんが、アンテオケのクリスチャンたちはリーダーの派遣を煙たがらずに、むしろ喜びバルナバの奨励に従いました。その一致によって教会がますます前進することができました。

またバルナバはサウロを探して彼を励まし、また教育して育てました。今日、世界中の教会に必要なのは、このように主のために働く人材を育てることです。また自分自身が主のために育てられることです。

このように教会は霊的に成長していましたが、ききんという困難が起きても、むしろそれを愛の証しに変えることができたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

